



安全・安心・住んで良かった・誇れるまち 八清

# わがまちの自治会 会報 八清親和会 トピックス



会員の元気を 八清地域の元気に



令和4年 第 2号

発行責任者 八清親和会 会長 三田幾一 編集 副会長 吉田祐治  
発行 令和4年4月29日

八清住宅地域や八清親和会を見つめ直すシリーズ“わが街・わが自治会の今・昔”は、八清親和会員も八清住宅ができた当時からの一世代会員が少なくなり、2世代・3世代の会員や、戦後転入してきた会員が多くなり、地域の歴史を知る住民が少なくなりました。

この70年以上の歴史ある街“八清”を知っていただきたいと思えます。

## ◆第3回は、八清住宅地域の安全の神様として、多くの御守護を集めている“昭和天満宮”を紹介します。

八清住宅地域の住民に親しまれている“昭和天満宮”は、シリーズ第1回「八清の由来」でご紹介しましたように、桑畑に広がる農村地帯に、ロータリを中心として放射線状に区画された、大規模住宅が誕生した頃からの、古い由緒をもつ神社です。神社は昭和16年、この産土神（うぶすながみ）として奉祀（ほうし）されました。当時の神社は小さな祠で「八清神社」と呼ばれていました。



（当時の神社）

終戦後雨露にさらされるままに放置されていたため、これを遺憾とした有志が処金再建をはかり、国立市の谷保天満宮から分霊を勧請奉斎（かんじょうほうさい）し、昭和27年9月遷宮祭を執行し「昭和天満宮」と改められました。

ご承知の通り、国立市の「矢保天満宮」の御祭神は、菅原道真公（すがわらみちざねこう）で、学業の神様として古来から子供たちの信仰を集めています。また、交通安全発祥の地でもありますため、合格祈願や交通安全祈願に多くの方が訪れています。神紋は梅模様。このため、「昭和天満宮」の神紋も梅模様で、住民に親しまれています。毎年、8月第2週土・日の2日間は、例祭として「昭和天満宮大祭」が執り行われます。当日は、昭和天満宮前の八清公園で自治会行事の「盆踊り大会」も同時に行われ、神輿、山車、子供獅子舞（お費銭）、盆踊り、アトラクション、カラオケ大会、自治会員や子供たちを対象にした抽選会や、ゲームコーナー、模擬店等で祭り一色になります。



祭りの神事は、谷保天満宮より神官をお招きして、2日間の神輿、山車、役員交通安全祈願を行っていただきます。昭和天満宮は小さな神社のため

お祭りのお手伝いやお世話をする氏子会がありません。このため「八清親和会」が神社をお守りしお世話をしています。このため、祭り（含む盆踊り大会）は、八清親和会を中心とした、神輿同好会、老人会、子供会、商店会で祭典実行委員会を編成して実施しています。今では、近隣からの神輿の担ぎ手や、八清住宅の住民ならびに周辺地域の住民等が訪れ、2日間の来場者、参加者、祭りの役員等で延べ人員1,300人を超える規模の祭りとなりました。



[参考資料]昭和38年、昭島市郷土研究会発行 名所旧跡めぐり 以上